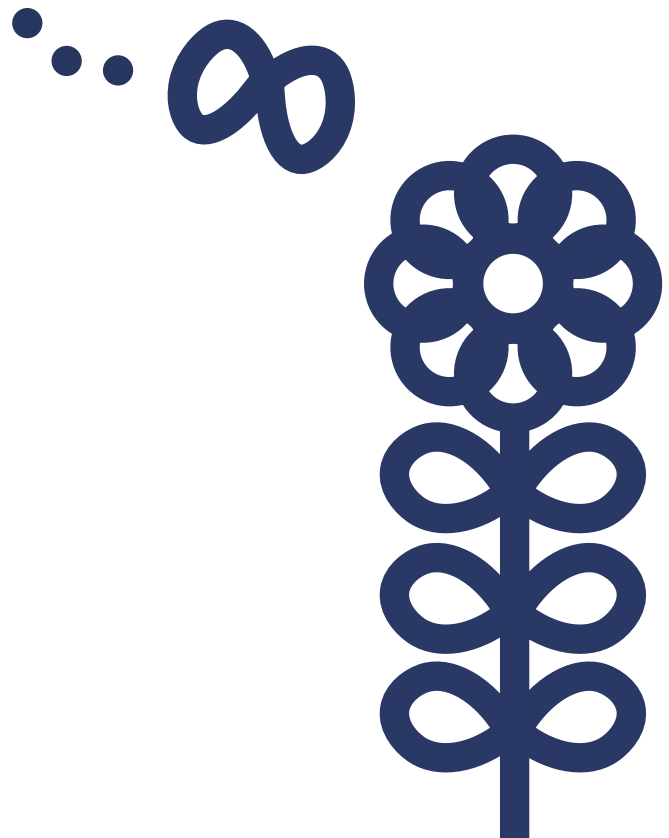


6

環境報告書の基本項目



p.64 外部の方々との意見交換会

p.66 環境ガイドライン対応表

p.67 編集後記

外部の方々との 意見交換会

千葉大学ではサステナビリティレポートの第三者レビューとして、毎年、千葉大学のステークホルダーの方々との意見交換会を行っています。今年はコロナ禍のため、オンラインでの開催とメールでご意見をいただくという2通りで実施しました。

オンライン意見交換会は2021年8月25日に、千葉県環境生活部環境政策課政策室の服部正浩室長と、上智大学経済学部の上妻義直教授をお迎えして開催しました。司会は千葉大学環境管理責任者の倉阪秀史が務め、本レポートの編集長である園芸学部3年の谷口明香里と、副編集長である工学部2年の井川将大と園芸学部2年の森下遥が参加しました。オンラインの日程調整がつかなかった千葉大学教育学部附属幼稚園のPTA会長の小笠原剛様、千葉県立千葉女子高等学校3年の西村美穂様、山口侑夏様には、メールでご意見を賜りました。

上妻義直教授



服部正浩室長



小笠原剛様



西村美穂様



山口侑夏様



千葉大学の環境活動や取り組みについて

上妻 環境配慮促進法で2005年から国立大学法人は環境報告書の作成が義務付けられていますが、千葉大学はその1年前から作成しており、とても意識が高いと感じていました。内容も他大学と比べても品質が高く、先進的であると高く評価しています。環境マネジメントシステムや環境活動については、オーソドックスにやらなければならないことを丹念に丁寧に行い、それぞれに高い品質を目指しているという意識の高さを感じました。また、学生主体で取り組むことが大きなポイントになっていますが、長い時を経て、学生活動の品質と量が著しく増してきているように感じます。どの大学も学生の意識は高いけれど、学内の経営層や教職員の連携がうまくいかず、こういう活動に結び付けるための学内の仕組みをつくるのが難しい状況があります。千葉大学は学生を巻き込む仕組みができていて、高度に機能している点が素晴らしいです。

服部 環境ISO学生委員会には300人も所属していて、活動を授業の単位として認めるということで、大学として環境への強い姿勢を感じました。また、活動内容では地域の方や企業など関連する主体が多岐にわたるので、教員の方や事務の方の助言や指導の賜物であり、何より学生のやる気を感じました。千葉県の方も頑張らなければと思いました。県庁では本来ならば今年も「環境マネジメントシステム実習Ⅲ」(p.13)でインターンシップの学生を受け入れるところでしたが、コロナで中止となってしまったので、来年はぜひ受け入れたいと思っています。

小笠原 コロナ禍においても実施できることを見つけ出し、実行しているところがとても素晴らしいと思います。短期での活動や、長期ビジョンを持って様々な取り組みにチャレンジするなど、多

種多様な取り組みを行っている事がわかりました。個人的にはRE100に興味があるので、長期ビジョン(p.4)でRE100を目指すということで、大学としての社会的責任を果たしていただき、さらに、他大学や企業も千葉大学を参考にしてRE100を導入し、地球温暖化対策に貢献していただけたらと思います。また、環境マネジメントシステムを学生主体で行っている事にも感心しました。ISOの認証やSDGsは各企業でも行っており、学生時代から学ぶことは、将来社会人になった時にきっと役立つことと思います。学生の皆様、楽しみながら環境活動を頑張ってください。

西村 多くの人を楽しみながら環境について考えてもらえるよう、工夫して活動していて大変良いと思いました。多くの環境問題に関連した教育活動が実施され、早いうちから環境問題にふれ考えることは、将来を担う若者にとってとても重要なことだと思います。また、どのような学問がどの、そしてどのようにSDGsに関わっているのか知ることで自分にあった貢献の仕方を見つけやすくなると思いました。

山口 EMSの運用など、企業で行われていることを大学生のうちから早く活動できる学生組織があることで、社会に出る前からマネジメントを学ぶことができ、素晴らしいと感じました。また、環境関連科目が多く、どの分野でも環境教育が受けられる点や、附属学校における環境教育などが、とても良い機会であると感じました。コロナ禍であるにも関わらず、環境ISO学生委員会の活動が停止することなく、工夫した取り組みをされていて、素晴らしいと感じました。

本レポートの原案について

上妻 世界では、サステナビリティという括りで環境面と社会面を統合して報告するのが一般的な考え方です。そういう意味では千葉大学が環境報告書の枠組みを超えてサステナビリティレポートに変化させたのは良いと思います。さらに、世界のサステナビリティレポートを取り巻く制度は大きく動いています。例えば、IFRS（国際会計基準）の枠組みの中でサステナビリティ報告基準ができることになりました。EUでは会社法で上場会社にサステナビリティ報告を義務付けていますが、これが改正されて詳細な報告基準をつくることになりました。これらのグローバルな動きをキャッチアップして対応できるともっと良いと思います。そうした中で千葉大学の報告書で課題となる部分としては、バリューチェーンマネジメントを挙げることができます。大学のアウトプットとしての学生が、社会に出たあとの成果やリスクの報告について検討を進めてはいかがでしょうか。また、社会面での報告として、人権問題についての取扱いが少ないと思います。これらの点に改善の余地があると思いました*1。

服部 このレポートを学生が中心となって作られたということで、完成度の高さに驚いています。きめ細かく丁寧に作られているというのが第一印象です。ここまで地域や企業の方々と協同して活動もしているので、これ以上言うことはないです。少しボリューム感があるように感じますが、皆さんが実施してきた成果でもあるので良いと思います。

小笠原 レポートとしては大変よくできていると思います。誤字脱字が多少見受けられますので、発行までに修正していただけたらと思います*2。各項目の右上にSDGsのアイコンがあり、どの目標に貢献するか一目でわかるため、とても良いと思いました。また、「学部長・センター長に聞く！」(p.20、21)の先生方の

学生へのメッセージがとても素晴らしいと思いました。優秀な千葉大学の学生は、きっと多くの素晴らしい先生方から多くの学びやメッセージを受け取り、必ず素晴らしい社会人になってくれると思いました。このレポートは、大学の近隣住民の方や大学に興味のある方、そして、学生の親御さん等に是非とも読んでいただきたいものだと感じました。しかし、一部の方には難しく、つまらないものと思われるので、画像を大きくし文章を少なくしたり、興味の湧くような面白く分かりやすい文章にしたりすると良いと思います*3。それによって、大学と近隣住民との相互理解が深まりより良い地域社会が形成されますし、親御さんにとっては子供の成長や素晴らしい施設、教職員の下、勉学に励んでいることがわかり安心すると思います。

西村 大変詳しく書いてあるので、興味を持った方には、良い冊子だと思います。分かりやすく丁寧に書かれていますが、あまり環境問題に親しくない人には、読むのに気合いがいる量かなと思いました。写真やグラフが多く入っているのでとてもイメージがしやすいと思いました。また、二次元バーコードを利用してYouTubeが見られるようになっており(p.39)、より分かりやすくする工夫がみられ、とても良いと思います。

山口 個人的には「SDGs・環境に貢献する最先端の研究」(p.16～)が面白かったです。専門知識がない一般の方や高校生にも読みやすいのではないかと思います。記事中に「※」で用語の解説を入れてあるところもありますが、「エネルギーマネジメントシステム」など、聞き慣れない言葉の解説がなく、一般の方や高校生にとって、読みにくいと感じるところもありましたので、注解や用語集をもう少し、増やした方が良いのではないかと思います*4。

千葉大学の今後の環境活動に対して期待すること

上妻 大学の主体になるのは学生です。このような活動を通じて教育され経験した学生が社会に出た後、社会を変革する機動力になるインパクトは大きいので、この取り組みを進めていただきたい。それとともに、サステナビリティや報告書づくりの面で、世界は大きく変化しているので、それをどうキャッチアップするか、学生をどう教育していくのかが、大学の使命だと思います。教員と学生が話し合っ、次の世代につないでいていただきたいというのが、先駆者としての貴学の役割ではないかと期待しています。

服部 脱炭素社会に向けて、菅首相がゼロカーボン宣言をするなど、環境面での取り組みはここ数年で大きく変化しています。国や世界の動きを踏まえて、県でも対策を考えていかないといけないと思っています。千葉大学は取り組みが進んでいるので、継続していただきたいです。また、コロナ禍でもあるので、学生の皆さんには楽しみを見つけて、活動していただくと良いかなと思います。

小笠原 私の想像と期待をはるかに超える活動を学生主体で実施しており、また、教職員の方々は学生のサポートに加え自らの研究をしておられ、それらの素晴らしい研究が実を結ぶことを期待しております。効率の良い仕事を行う為に整理、整頓、清掃、清潔、躰という5S活動がありますが、一部の人が一生懸命5Sをしても、全員が躰をされていないとすぐに煩雑な環境になってしまい

ます。したがって、環境ISO学生委員会が活動するだけでなく、他の学生、教職員への理解と協力が得られるように啓蒙活動やマナー講座等を開き、大学全体で環境活動に参画できるようにしていただけたらと思います。コロナ禍で大変な時代ではありますが、環境の為、未来の地球の為、子供たちの為に尽力いただき、誠に感謝しております。

西村 私は附属小中学校に通っていましたが、小中学校の環境環境ISO学生委員会に入っていない児童生徒はそこまで環境についてじっくり向き合う時間がなかったと感じています。全ての児童生徒がしっかりと向き合えるような機会を多く持てるよう、活動して下さることを期待しています。

山口 千葉大学の周辺にある学校にもサステナビリティレポートを配布し、誰でも閲覧できるようにしてもらおうなど、より多くの学生・生徒に千葉大学のサステナブルな活動を知ってもらう機会を増やした方が良いと思いました。今後、学生たちの身近に千葉大学の環境活動を知る機会が増えることを期待しています。

編集部より

たくさんのご意見ありがとうございました。

※1 今後の課題とさせていただきます。

※2・4 ご指摘ありがとうございます。見直して修正します。

※3 デザインでカバーできるところは適用し、その他は来年度に検討します。

環境報告ガイドライン 対応表

このサステナビリティレポートは環境省による「環境報告ガイドライン 2018 年版」に対応しています。

環境報告書の基本情報	該当ページ	記載されている章（見出し）
1. 環境報告書の基本要件		目次（編集方針）
2. 主な実績評価指標の推移	24-31、60	脱炭素キャンパスを目指して、循環型キャンパスを目指して、物質収支（マテリアルバランス）、物質収支詳細データ（※）
環境報告書の記載事項		
1. 経営責任者のコミットメント	3、4、6-7	千葉大学環境・エネルギー方針、長期ビジョン、学長からのメッセージ
2. ガバナンス	11-14	千葉大学の環境マネジメントシステムの概要
3. ステークホルダーエンゲージメントの状況	18-19、22 35-36 39、40-42 43、45 47-50、64-65	学部・大学院での環境教育、附属学校における環境教育・環境活動、大学を支える事業者のSDGs・環境への取り組み、学生と企業とのSDGsな取り組み、地域社会との環境に関する交流・発信活動、NPO法人としての取り組み、誰もが働きやすい環境の実現を目指して、SDGs達成に向けた社会的な取り組み、外部の方々との意見交換
4. リスクマネジメント	11-14、55-58	千葉大学の環境マネジメントシステムの概要、環境目的・環境目標と達成度評価一覧
5. ビジネスモデル	1、16-17 18-19	大学概要、環境・SDGsの達成に貢献する最先端の研究の紹介、学部・大学院での環境教育
6. バリューチェーンマネジメント	24-26、27-31 55-58	脱炭素キャンパスを目指して、循環型キャンパスを目指して、環境目的・環境目標と達成度評価一覧
7. 長期ビジョン	4	長期ビジョン
8. 戦略	3、4、11-14	千葉大学環境・エネルギー方針、長期ビジョン、千葉大学の環境マネジメントシステムの概要
9. 重要な環境課題の特定方法	11-14 55-58、59	千葉大学の環境マネジメントシステムの概要、環境目的・環境目標と達成度評価一覧、環境関連法規制等の順守状況
10. 事業者の重要な環境課題	2、3、11-14 55-58、60、61	千葉大学憲章、千葉大学環境・エネルギー方針、千葉大学の環境マネジメントシステムの概要、環境目的・環境目標と達成度評価一覧、物質収支（マテリアルバランス）、環境会計
主な環境課題とその実績評価指標		
1. 気候変動	24-26、60、61	脱炭素キャンパスを目指して、物質収支（マテリアルバランス）、環境会計、物質収支詳細データ（※）
2. 水資源	24-26、60、61	脱炭素キャンパスを目指して、物質収支（マテリアルバランス）、環境会計、物質収支詳細データ（※）
3. 生物多様性	32、39 40-42、43	自然共生キャンパスを目指して、学生と企業とのSDGsな取り組み、地域社会との環境に関する交流活動・発信活動、NPO法人としての取り組み
4. 資源循環	60、61	物質収支（マテリアルバランス）、環境会計、物質収支詳細データ（※）
5. 化学物質	33-34、60、61	安心安全なキャンパスを目指して、物質収支（マテリアルバランス）、環境会計、物質収支詳細データ（※）
6. 汚染予防	59、60、61	環境関連法規制の順守状況、物質収支（マテリアルバランス）、環境会計、物質収支詳細データ（※）

※物質収支詳細データは千葉大学 Web サイトを参照
<https://www.chiba-u.ac.jp/general/approach/environment/>



編集後記

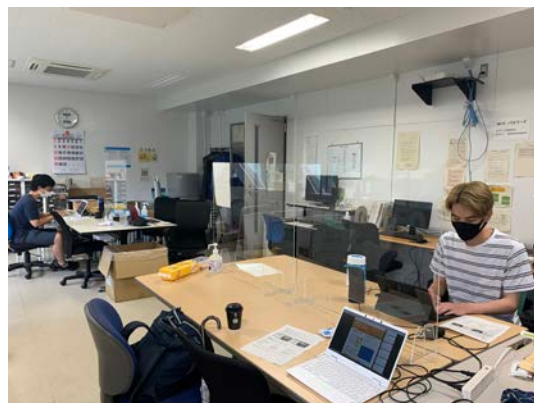
千葉大学のサステナビリティレポート（旧環境報告書）は、初めて発行した2004年度から継続して環境ISO学生委員会が原案作成・編集作業を担当しています。各種環境・財務データや記事寄稿、校正などで教職員が協力して完成に至ります。

環境ISO学生委員会 サステナビリティレポート2021 編集部より

谷口明香里 編集長（園芸学部3年）

「千葉大学サステナビリティレポート2021」をご覧いただきありがとうございます。千葉大学の環境報告書は今回で17冊目の発行となります。2015年に採択された持続可能な開発目標（SDGs）を受け、環境に関する取り組みの報告だけでなく、SDGsの目標達成に向けた取り組みの記載を充実させました。本冊子は千葉大学の行う事業や研究活動において17個の目標すべてを網羅して取り上げた冊子に仕上げました。地域社会や関係者の方々、環境活動やSDGsも目標達成に向けた取り組みに従事する皆様に対するコミュニケーションツールとして、千葉大学の様々な活動への理解を深めていただき、社会全体のSDGsの目標達成に向けた取り組みの促進に貢献できたら幸いです。

そして、本レポートの作成にご協力いただいた、多くの教職員の方々、インタビューにご協力いただいたの方々、掲載データをご提供くださったの方々、デザインにご協力いただいたの方々、その他全ての関係者の方々に厚く御礼申し上げます。



編集作業の様子 ▲

環境管理責任者より

倉阪秀史

大学院社会科学研究院教授
（環境管理責任者 < 教員系 >）



千葉大学では、2004年以来、17年にわたって、学生主体で環境マネジメントシステムを運営しています。最初の環境報告書は2005年3月に発行しました。2019年からは、SDGsを環境方針に位置づけたことをきっかけとして、社会面の報告を加えたサステナビリティレポートとしました。今年の報告書も、谷口編集長をはじめとする環境ISO学生委員会のメンバーが主体的に作成作業を行いました。その過程では、さまざまな記事の執筆、インタビューの実施、各種データの収集、法規制順守などの項目で、教職員も役割を果たしています。さらに、8月下旬にはオンラインとメール執筆という形で、報告書原案に関する意見交換会も開催しました。このレポートが広く読まれることによって、千葉大学のSDGsの達成に向けた取り組みを広く知っていただければ幸いです。

前田弘喜

施設環境部長
（環境管理責任者 < 事務系 >）



千葉大学の環境管理責任者として、「千葉大学サステナビリティレポート2021」の作成にご協力いただいた皆様にお礼申し上げます。昨年度は新型コロナウイルスの影響により、環境ISO学生委員会も例年の活動や新たな取り組みが思うようにできず、もどかしい一年でありました。そんな中でも、大学の感染防止対策の方針を遵守し、学生委員会独自のガイドラインを作成し、それに沿った様々な活動を行い、その内容が本レポートに盛り込まれております。環境活動においてもコロナ禍の終息が見えない以上、新たな柔軟な発想が社会に求められていると思っております。今後も、持続可能な開発目標（SDGs）の達成に向けた取り組みを進めている本学として、中山新学長の下、「千葉大学環境・エネルギー方針」を推進するため、学生・教職員が一丸となり、教育・研究機関として社会に貢献してまいります。

取材・執筆等協力者（敬称略・五十音順）

教職員

秋田典子、秋田英万、石田剛志、泉康雄、植田憲、尾内善広、岡山咲子、小椋康光、倉阪秀史、小谷真吾、小林弦矢、小林直実、笹川千尋、鮫島隆行、下井康史、下村義弘、田島翔太、中川誠司、中島誠也、中山俊憲、夏亜麗、野田勝二、星野勝義、前田弘喜、町田基、百原新、森部久仁一、山内翔

西千葉・亥鼻地区環境 ISO 学生委員会

新井このみ、荒引円花、井川将大、石井和、梅木里菜、金原幸大、河村嶺依奈、魏屹麗、熊倉優輝、佐々木美緒、佐藤宏紀、七田朋香、須藤凜之助、大六野貴希、大六野祐斗、高橋稜賀、武村有紗、谷口明香里、玉腰千紘、土屋健太、戸井田俊介、根本美香、橋本隼大、樋川喜一、平間結、丸岡紗英、三原悠慎、三輪慧、森下遥、茂路真歩、八木原優真、山本健太

松戸・柏の葉地区環境 ISO 学生委員会

遠藤優雨、大島有希那、金澤周寛、久保田美紀、玉木麻香、長谷真衣、藤本美晴

一般学生・院生

磯野琢巳、植木理奈、宇田川瑞姫、大木翔生、越智健太、鈴木丈皓、田口和美、田中光二、前川杏子

その他

NPO 法人環境ネット、小笠原剛、株式会社京葉銀行、氣仙佳奈、上妻義直、佐々木誠司、瀧一馬、田中奈都美、千葉市環境局環境保全部環境保全課、西村美穂、服部正浩、林功、三菱王子紙販売株式会社、矢野裕之、山口侑夏、大和紙料株式会社、吉田憲司

編集担当者

サステナビリティレポート 2021 編集部（環境 ISO 学生委員会内）

井川将大、遠藤優雨、久保田美紀、熊倉優輝、須藤凜之助、大六野貴希、大六野祐斗、武村有紗、谷口明香里、玉木麻香、玉腰千紘、根本美香、長谷真衣、藤本美晴、森下遥、八木原優真

デザイナー

宮脇愛美（大学院融合理工学府創成工学専攻デザインコースコミュニケーションデザイン研究室）

鈴木智咲（大学院融合理工学府創成工学専攻デザインコースコミュニケーションデザイン研究室）

環境 ISO 企画委員会

秋田典子、有野克己、石原裕、上野武、岡山咲子、倉阪秀史、澁谷祐二、鈴木雅之、諏訪園靖、関英徳、滝口光信、豊川斎嚇、中島由貴、能川和浩、野田勝二、林立也、前田弘喜、丸尾達、茂路真歩、安森亮雄、山崎敏裕

環境 ISO 事務局

境麻美子、中嶋央子、中塚麻子、西坂涼、山崎敏裕

本レポートの環境への配慮について

千葉大学のサステナビリティレポートはPDFにして千葉大学ホームページ（<https://www.chiba-u.ac.jp/general/approach/environment/>）にも掲載することで、印刷冊数は必要最低限としています。

さらに、FSC® 認証のついた用紙の使用や植物油インキの使用など、印刷の工程でも環境への配慮をしていただける印刷会社に発注しています。また、印刷・製本する時に使用する電力は、毎年グリーン電力で賄い、購入費用はレジぶー基金（p.30）から拠出しています。なお、本レポートの印刷・製本時の電力316.99kWhは、バイオマス発電のグリーン電力で賄われました。

本レポートのデザインについて

本レポートは、大学院融合理工学府創成工学専攻デザインコースに所属する宮脇愛美さん、鈴木智咲さんが担当しました。

「千葉大学サステナビリティレポート 2021」では、千葉大学が変わりゆく社会情勢に合わせて様々な活動を行ってきたことが伝わるようなデザインを目指しました。テーマは「成長」と「循環」で、植物をモチーフに表現しました。また、カラーには引き続きSDGsカラーを意識して使用しています。これからも訪れるであろう様々な困難にも、大学や私たち学生が、成長しながら柔軟に対応していくことができたらと思っています。（宮脇愛美）

